

<国際政治経済>

イラクのクウェート侵攻、東西ドイツの統合で ~~国際勢力地図~~
国際勢力地図はどのように塗り替えられるか?

するとともに

中国
セミナー

中嶋 嶺雄 (東京外国語大学教授)

●天安門事件の歴史、現在の社会主義国家の歴史の歴史の歴史

初めから言及して申し訳ないんですが、今度出版する本の歴史が求めているものはなにか(PHP研究所)のなかで、私はこのところの急速な社会主義国の民主化を(八九年革命)と名付けています。

これは一九八九年六月におこった天安門事件こそが、現在の民主化の流れを作った決定的なものと捉えているから「カウンター・レボリューション(反革命)」なんです。九〇年代は東西冷戦が終焉し、社会主義は崩壊していくわけです。

このあいだ東ドイツのフンボルト大学で講義をしたんですが、そのとき集まってくれた字者(学生たち)も「中国の悲劇が東欧を救った」と言っています。それだけ天安門事件の社会主義国に与えた影響は大きかったんです。

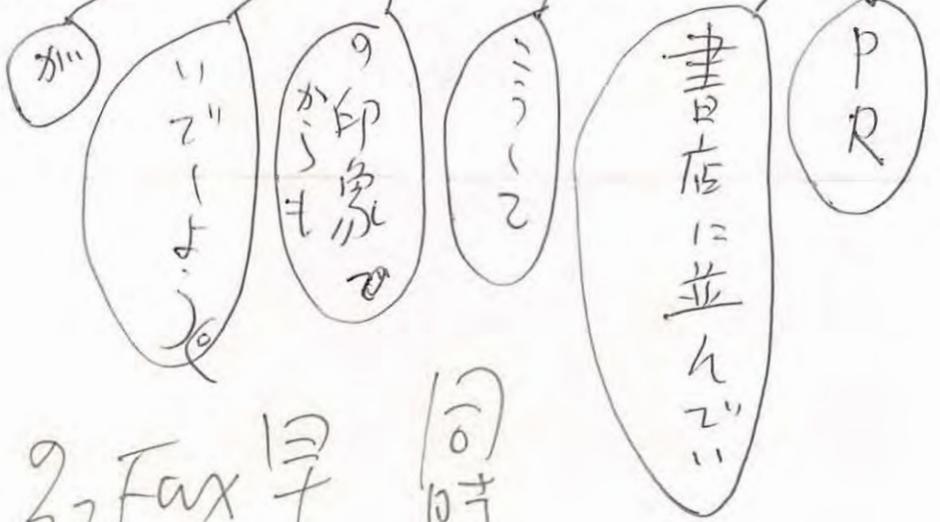
たとえば、東ドイツ、ベルリンの壁が崩壊(加)も、まさかあのような形でホーネッカーが辞任していくとは思わなかったでしょう。あれだけ権力をほしいままにしてきた人物でさえ、天安門のような流血の参事を回避しようとしたわけです。残念なことにルーマニアのチャウシェスクだけは違いましたね。

これはヨーロッパ社会に伝統的に横付け社会的成熟度の違いがすなわち人権感覚の違いです。

中国にしても、このままで終わるわけはない。昨年のゴルバチョフ訪中の直後に天安門事件がおきたのですが、その結果、国民の間にある「民主化要

求

根



中嶋

の

の

Fax

早川

同時代

(Fax) 2673107

体制崩壊
と危機

と結びついた

同様に
なると

もソ連も

求「の強さ」を恐れた結果が、血の粛清
だったわけですが、でなければすでに学
生の数も減っていた天安門にあえて軍
隊を突っ込ませるはずはない。結局は
権力闘争なのですが、同時に力で国民
を押しこめ付けることの限界を知って
いるのは、当の中国共産党幹部だと思
いますよ。その意味では、第二の天安門
事件が近い将来起こっても不思議はな
い。

中国や北朝鮮がどういった形で民主
化していくかはわかりませんが、この
流れはもう決定的なものなんです。
●経済問題が本末の根幹を
引ずる

この民主化の流れは、「自由への圧
制」もありますが、やはり経済的要因
がいちばん大きいでしょうね。
東西ドイツの統一は、西が東を吸
収する形になったのですが、
一コール（前西ドイツ首相）は東を一
億八〇〇万マルク（約一兆円）で買
った」と言われています。
なにしろ、東ドイツからソ連軍が撤
退する金もなかったんですから。それ
を西ドイツが肩代わりしたんです。そ
れほど東ドイツの経済状態が苦しかった
わけですね。しかも東ドイツは経済的
に「共産主義の優等生」と言われてい
たのだから、よその国の窮乏よりは予
想できるでしょう。

これからヨーロッパは、東西の格差
の問題はありますが、先にも言ったよ
うに、ヨーロッパ流の伝統的システ
ムで、大きな混乱なく進んでいくもの

今後の大問題です

実現には

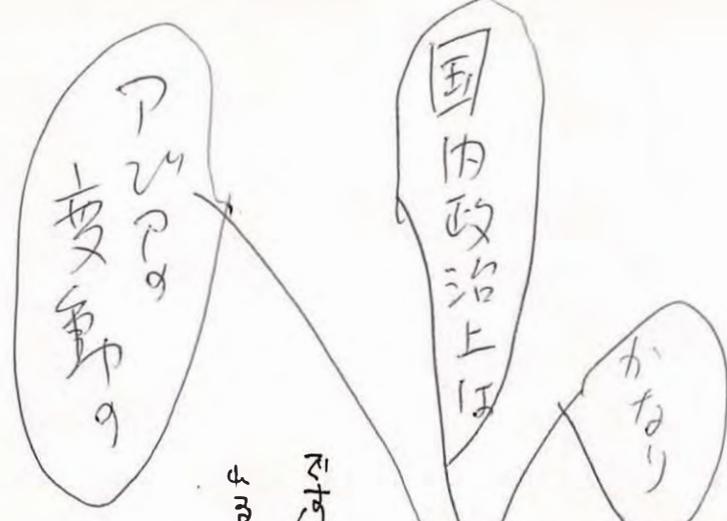
統一を明確に
あつた
ように

下に
揺るぎなく

下へ
たしか一兆

千億

のは



✓ 思います。
 ●日本の役割は、ともかく経済援助
 助かない現状

そうなると、これからの国際政治の問題は、中国の民主化と朝鮮半島の統一という、アジアがその中心になってくるでしょう。

その前にイラク問題ですが、私はこれを新しい時代の多元的な動きのひとつとみています。ですから、長い目でみると、後になって「ああ、こういうこともあった」という程度の問題ではないでしょうか。

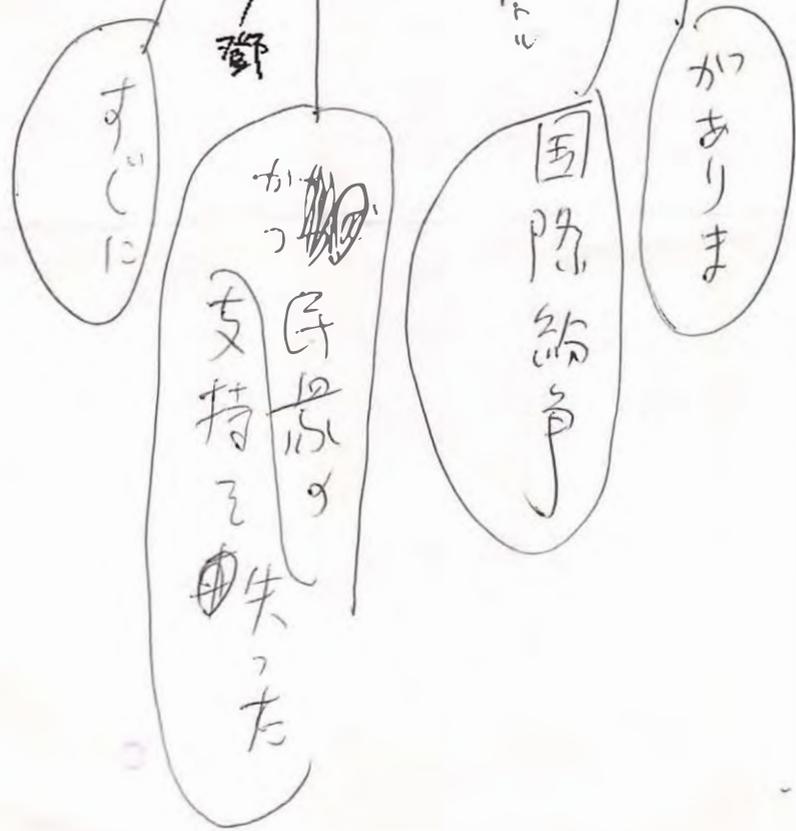
で、アジアの民主化ですが、順序としてはまず中国、そして北朝鮮だと思えます。しかし、北朝鮮はいわば「宗教国家」。したがって、もし金日成に何かがあると、一気に新しい流れが生まれ、南北統一に向かうという可能性もある。しかし彼は高齢の小平とは違って、まだまだ健在でしょう。

きつかけとしては、九七年の香港返還が引き金になる可能性が高いと思えます。ですから来年大きな変化があるとは、ちよつと考えにくい。しかし、その変化は突然生まれるものではなく、政治的・経済的に民主化への足固めが必要でしょう。

よる
 日本もそういう意味では何らかの協力を求めらねます。しかし、これがまた難しい問題なんです。

文化的交流を促進させるという考え方もありますが、アジアはヨーロッパと違い、文化に関しては「共通性の欠如」があつて、そういうわけには行か

ま



先日

政治的に

待たせられた

ですから日本は、やはり戦後築いてきた経済力で協力していくしかありませんよ。香港返還に関するセミナーが現地であったんですが、そこでの発言で、誰も日本に援助を求めた人はいなかった。現在日本が香港での投資残高一位なのにですよ。彼らに言わせると「とにかく日本はいまのままでいい。我々の将来はかわらないで欲しい」ということらしいんです。

歴史的な関係もあり、仕方のないことかも知れませんが、それが日本の宿命と思って、とりあえず経済協力を続けていくしかない。アジアへの貢献については、今のところそれしかないでしょう。(笑)

母に

HL22
中嶋敏雄 (なかじま みねお) 1936年長野県生まれ。東京外国語大学教授 (国際関係論・現代中国学)。文化大革命を権力闘争だとして、批判を展開したことは有名。著書は『中ソ対立と現代』『北京烈熱』

経済国家

の将来